

最新トラブル事例+10

1. フランジ用シートパッキン（内面式）のサイズを間違えた！

加工管やねじ込みのフランジなど、ボルトナットを使用して接続する場合、シートパッキン（テフロン含む）を使用します。パッキンには径が書いてない場合もあり、近い径のものを間違えて使ってしまうケースがあるのです。

複数のサイズのパッキンを使っている場合で、特に80Aと65Aなどの近いサイズでは間違いやすいです。配管径に対して小さいサイズのパッキンは使ってしまうので、最悪は気づかずに引き渡してしまうことすらあり得るのです。

間違えないための確認ポイントとしては、「パッキンの外径はボルト穴ギリギリ」ということ。本来はパッキンが配管の芯に収まっていないとボルトが通らないこともあります。焦っている時でもこの点は見落とさないようにしましょう。

2. 伸縮継手の拾い忘れ、施工時の入れ忘れ

図面を見て材料を拾い実際に配管する際に忘れてしまいがちなのが「伸縮継手」です。なぜなら、伸縮継手は図面上でソケットなどで代替表示されたり、もしくは表示すらされずに口頭で伝えられたりすることが多いからです。

これを踏まえて、忘れを無くすためにできる主な対策は以下。

- ・ 図面にデカデカとしっかり記載をしておく
- ・ 縦管や距離が長い直管部分には伸縮継手が必ず入ると思っておく

特にマモノ（定尺）を何本も接続する“ぶん伸ばし”配管などでは、サクサク接続していきいってしまい忘れがちなので注意しましょう。

3. 消火栓配管（連送）の送水口のねじ込み部分から漏水

消火栓配管は一般的な上水配管に比べると高圧がかかるものが多いです。そのためねじ込みの際には専用のシール剤を使いますが、送水口のねじ込み部から漏れると厄介です。

送水口には専用のバルブをねじ込むのですが、角度が決まっていることはもちろん、極力傷をつけてはいけないため、よりシビアなねじ込みが求められるからです。

漏水を防ぐには、回らなくなることや傷つくことを過度に恐れて1周手前（もしくはそれ以上）で止めることがないようにする必要があります。

4. 台車や高所作業車でマキベエを破壊してしまった。

鉄骨部の仕上げにマキベエが使用されることは多いです。これを台車や高所作業車などで破壊してしまうことはよくあります。

もし傷つけてしまったら、専用の補修テープがありキレイに直すことができますから、必ずその場で報告しましょう。この補修テープは配管の貫通処理などにも使われるものです。

ちなみに、機械室の壁に貼られているグラスウール（通称ざぶとん）にも専用の補修剤がありますから、こちらも万一傷つけてしまったらすぐに報告しましょう。

5. シートパッキングが振れていたことにより漏水

給湯配管や機器周りでフレキを使う際、シートパッキングを使用するかと思います。シートパッキングはゴムパッキングと比較するとキツめに締付けるのはもちろんですが、パッキングが当たる面の凹凸やゴミには気を遣いましょう。

なぜなら、シートはあまり柔軟性がないため、それらが原因でパッキングがよじれて漏水することがあるからです。



通水後に面倒な機器周りで漏水すれば、パッキン交換だけで一苦労なので、フレキの袋ナットを締める前に少し気にしてみてください。

6. 圧力計のゲージが少なくて振り切ってしまい交換に

ポンプや熱交換器などの機器周りの配管には、基本的に圧力計がつきます。圧力計については交換することを考えておくことが必須となります。

まず注意しておくべきなのは直前のバルブ（コック）の有無です。バルブがなければ通水後の交換が非常に面倒になります。また、ゲージの容量が小さ過ぎて振り切ってしまい交換になるケースも多いです。

なので、どの程度の圧力がかかり、交換が確実にできることを確認しておく必要があります。

7. インパクトのトルクが強すぎてボルトナットがかじりついた

最近のインパクトに多いのですが、だいぶパワーが強くなり、機能もたくさんつくようになりました。それもあり、機能を適切に使い分けなければ、ビスの頭が飛んだりボルトにナットがかじりついたりします。



ですので、回転スピードの調整・ボルトモードの有無などを確認して、できるだけ用途に合わせた設定で使いましょう。

8. 架台先行取付の配管で取付後に配管が収まらないことが判明した。

鋼材製の架台を配管の前に取付けておき、後から配管を行うことがあります。その際に配管が収まらないケースがあります。例えば以下のようなことには注意してください。

- ・加工管のピースの形によっては通らないことがある
- ・スラブや壁貫通箇所とズレていて振りしろがない
- ・配管の継手と架台が重なっている

これらはよく起こりがちなので、可能な限り事前に確認するか、できるだけ早く気付けるように管径やルートを確認しておくべきです。

9. 巻き出しの仕込み箇所がほんの少し（25mm程度）ズレただけで収まらなくなり、大幅な直しが発生した。

巻き出し配管のいわゆる“待ち”の位置は非常に重要です。なぜなら、器具が取付けられなくなるからです。

±5ミリ程度のズレならどうにか収められることが多いですが、それ以上は厳しいです。特にトイレに関しては以下の位置はシビアです。

- ・小便器の給排水間の距離
- ・大便器の排水位置（ブラケット壁掛けタイプP）
- ・掃除流し（SK）の給排水位置

これらの位置はレーザーを使って正確に出すべきでしょう。

10. テストで圧が下がる（末端のテストプラグに関する統一ができてない）

テスト（空圧）で顕著に圧が下がるなら、末端のテストプラグを疑ってみてください。特に圧をかけているシステムに対して複数の職人が携わっている場合、テストプラグについて統一できていないことがあるのです。

例えば、単に手で入れてあるだけ、シールは巻いてあるが手締め、完全に締付けなど。

これが原因で圧が下がり、散々確認したら結局テストプラグだった…みたいなことにならないよう、携わる人間全てに統一した仕様を共有しておきましょう。